



理科だよ!!

第4号 (9・10月)
2026.9.11(金)発行
有田町立有田中部小学校
文責：理科専科 伊東 雅和

理科泣かせの『気候変動』

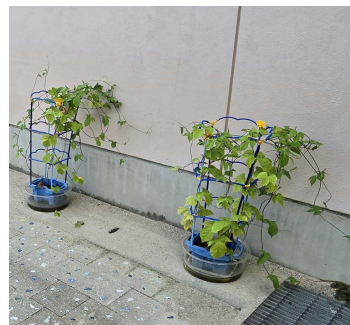
～台風も季節も“例年どおり”ではなくなっています～

「酷暑日」という言葉を何度も耳にした夏でしたが、酷暑に限らず、頻発する台風や各地で発生する線状降水帯など、ここ数年の気候変動には驚かされるばかりです。そして、この気候の変化は、理科の学習にも大きな影響を及ぼしています。

例えば、4年生の「季節と生物」という単元では、春・夏・秋・冬と季節による生物の変化を年間を通して観察します。しかし近年は春や秋がとても短く、教科書の写真と実際の季節の様子がずれてしまうことが多くなっています。4月初めに「春の始まり」を学習する際、教科書では満開の桜が示されていますが、子どもたちが目にする桜はすでに散ってしまっていることがほとんどです。

また、5年生の「台風と防災」では、台風が「日本の南から近づき上陸する」「通過後は雨や風がおさまり晴れることが多い(台風一過)」といった特徴を学びます。しかし今年は、こうした一般的な台風の動きとは少し異なる事例が多く見られました。理科担当教職員が集まる理科部会でも、生物や気象を扱う学習の進め方が年々難しくなっていることが話題になっています。

環境の変化に合わせて、理科で扱う内容や学習の仕方も、これから少しずつ変わっていくのかもしれません。



「酷暑」のため、底面灌水をしている5年生用のアサガオ

命名「横綱ひき太郎」



理科コーナーでは、体長15cmほどのオスのヒキガエルを飼っています。前任校の同僚が戸杓で見つけたものを譲ってくれたものです。子どもたちは気味悪がるのではないかと、持ってくるのを少し躊躇しましたが、4年生の教科書にもヒキガエルが登場するにもかかわらず、実際に目にする機会はほとんどありません。また、校区内にもこのようなカエルが棲んでいることを知ってほしいと思い、思い切って理科コーナーで飼うことにしました。

最初は怖々と見ていた子どもたちも、今ではすっかり慣れて、霧吹きで水をかけたりお世話をしてくれています。名前も子どもたちに公募し、「横綱ひき太郎」に決まりました。何もしゃべらない「ひき太郎」ですが、じっとたたずんで子どもたちを見つめている姿は、まるで逆に子どもたちを観察しているようにも見えます。先生方からも「なんだか癒やされるよね」と声をかけてもらっており、しばらくこのまま大切に飼っていこうと思っています。

夏休み理科作品展開催中!!

全校で9作品10名の子どもたちが応募してくれました。力の入った研究物が多く、子どもたちの頑張りを感しました。他の子どもたちにも見てもらい、「来年は自分たちも…」と思ってもらえるよう理科室横に展示しています。9月29日(火)のふれあい道徳授業参観の日まで展示していますので、ぜひご覧になってください。

※5年正司敬大さんの「命の旅ーカブトムシの一生」と6年原田蒼梧さんの「身近にある結晶の不思議」が伊万里西松浦支部特選に選ばれ、9月28日に行われる県の審査会に出品されます。



9・10月の理科の学習

.....9・10月は主にこんな学習をします。

6年

「5 生物と地球環境」

- 生物の間には、食う食われるという関係があること。
- 生物は、水及び空気を通して周囲の環境と関わって生きていること。
- 地球上の水は循環していること。

などについて学習します。

生物と環境の関わり について、食べ物・空気・水の視点から観察・実験・調べ学習を行い、生物同士のつながりや生態系のバランスについて考え、最後の単元「11かけがえのない地球環境～共に生きる～」へとつなぎます。」



「6 月と太陽」

- 月のかがやいている側に太陽があること、また、月の形の見え方は、太陽と月との位置関係によって変わる。

などについて学習します。

3年生で太陽の動き、4年生で月の動きを学習していますが、今度は月の見え方が太陽との位置関係で決まることなどを学びます。（下弦の月から再度下弦の月になるまで約1ヶ月続く学習です。）



「7 水よう液の性質」

- 水溶液には、気体が溶けているもの、酸性・アルカリ性及び中性のもの、金属を変化させるものがある。

などについて学習します。

子どもたちが大好きな『実験』がメインの単元ですが、塩酸やアンモニア水など危険な薬品も使用するので、緊張感を持たせて学習を進めたいと思っています。酸性・アルカリ性など生活との結びつきも多い単元です。

5年

「5 生命のつながり③

植物の実や種子の作り方



- 花にはおしべやめしべなどがあり、花粉がめしべの先に付くとめしべのもとが実になり、実の中に種子ができる。

などについて学習します。

花と実が同じ場所からできることに着目し、花のつくりを観察させます。次に、受粉の役割を実験で確認します。「受粉させるもの」と「受粉させないもの」の比較実験では、前回と同様に**「条件統制」**（調べたい条件以外を同じにする）の重要性を考えさせます。ここ数年『酷暑』のため植物の学習がとても難しくなっています。この単元の学習にあわせて、遅めに植えたアサガオですが、開花数が少なくて心配しています。動画等での学習もできますが、できたら実物を使って調べさせたいと思っています。本当に理科泣かせの酷暑です。

「6 流れる水のはたらきと土地の変化」

- 流れる水には、土地を浸食したり、石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがある。
- 川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがある。

- 雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わり、増水により土地の様子が大きく変化する場合があります。

などについて学習します。

子どもたちにとって身近な「有田川」の様子を見せながら学習を進めたいと思っています。

「台風と防災」の学習に引き続き、この単元でも『防災』の観点から川について考えさせます。



4年

「4とじこめた空気や水」

- 閉じ込めた空気を圧すと、体積は小さくなるが、押し返す力は大きくなること、閉じ込めた空気は押し縮められるが、水は押し縮められないこと

などについて学習します。

閉じ込めた空気の性質を使ったタイヤ、水の性質を使った豆腐の入れ物など生活との結びつきを考えることができる単元です。（5年生では、閉じ込められた水に守られている豆腐と同じように、胎児も子宮の中で羊水に守られていることを学びます。）

「◎季節と生物④ 夏の終わり」

季節と生物の4回目の学習です。夏真っ盛りを過ぎ、身近な動物や植物がどのように変化しているかを観察します。

「5 雨水のゆくえ」



- 水は、高い場所から低い場所へと流れて集まること。
- 水のしみ込み方は、土の粒の大きさによって違いがある。
- 水は、水面や地面などから蒸発し、水蒸気になって空気中に含まれていくこと。また、空気中の水蒸気は、結露して再び水になって現れることがある。

などについて学習します。

「水蒸気」「蒸発」「結露」など水の性質に関わる基本的なことを取り扱います。

線状降水帯による水害が相次いでいる中、『ハザードマップ』が話題になっています。1学期末に5年生の「台風と防災」の学習でもこのハザードマップを取り上げて、自宅付近と避難所への経路の危険を調べさせました。

〈子どもたちのふり返りから〉

- ハザードマップを見て、自分の家は安全だったけど、避難する時危険な道があったからそこを気をつけたいと分かりました。
- 自分の家は土石流警戒域に入っているとわかったから気を付けるようにする。
- 自分の家に近い避難場所が、有田中部小学校なのでなるべく早く避難しようと思います。家の周りが危険だとわかりました。

この機会に、ご家庭でもハザードマップを見ながら、家族で災害対策について話題にしてみてください。

Web 版有田町ハザードマップ
<https://www.town.arita.lg.jp/safety/>

